

2018 年度（平成 30 年度）

自己評価報告書

学校法人福岡保健学院 福岡水巻看護助産学校

本報告書は、学校法人福岡保健学院 福岡水巻看護助産学校の職業実践専門課程認定に関わる自己評価結果を記したものである。

評価対象期間 2018 年 4 月 1 日～2019 年 3 月 31 日

2019 年 7 月 31 日

学校長 重松昭生

副学校長 赤野志保美（評価実施責任者）

1. 教育理念・教育目的・教育目標

<教育理念>

「人間愛と自己実現」という人間の根本精神をあげ、一人ひとりの学生が人間愛の精神に基づき、看護の対象を深く理解し、受け入れ、専門的な知識、技術、態度を身につけることが出来るような人材育成を目指す。さらに、医療・看護分野の専門性の追求のみならず、一生を通じて人格向上の努力を続け、事故時つげしていけるような人を育てていく。

<教育目的>

本校は、人間性豊かな人格の陶冶と、看護師若しくは助産師となるために必要な知識及び高度な技術を専門的に教育し、社会に貢献する有能な人材を育成する。

<教育目標>

1. 人間愛を基盤とし、豊かな感性と対象の尊厳・権利を尊重できる倫理感を培う。
2. 人間をあらゆる側面から統合的に捉え、生活を営む存在として幅広く理解する能力を養う。
3. 科学的根拠に基づいて対象に応じた看護を実践できる基礎的能力を養う。
4. 看護の概念に基づき、安全かつ安楽に向けての看護が実践できる能力を養う。
5. 専門職業人としての態度を育成し、看護の質の向上に寄与できる自己教育能力を養う。
6. 人々が社会資源を活用できるよう、保健・医療・福祉を総合的に理解し、それらを調整する基礎的能力を養う。
7. 地域的・国際的な視野で、保健・医療・福祉の課題を幅広くとらえ、課の色色の役割・機能を展望できる。

2. 平成 30 年度重点目標

- 1) 看護学・助産学教育の強化を図る。
- 2) 学修成果の向上を図る。
- 3) 学生に対する支援体制の強化を図る。
- 4) 教育の資質向上を図る。
- 5) 社会貢献・地域貢献を図る。
- 6) 教育環境の整備を図る。
- 7) 業務改善及び効率化を図る。

3. 自己評価の概要と実施状況

1) 自己評価の目的、方針

- ①教育目的・目標の実現を目指して行われる教育活動に関する決定を行うために、必要な資料を収集整理して、実際の教育が当該目標をどの程度達成したか、または達成しつつあるかを見極め、それを次の教育活動へフィードバックしていく。

- ②評価結果から教育活動の改善点を見出し、教育活動の質向上を目指して再計画・実施する。
- ③自己評価ならびに学校関係者評価により、学校運営・教育活動における課題を明確にして、学校運営の改善を図る。
- ④自己評価は、「専修学校における学校評価ガイドライン」、および本校の学校評価実施規程に則り実施する。

2) 自己評価委員会委員

委員氏名	所属・役職
赤野 志保美	副学校長
平田 昌美	看護学科 教務部長
諫山 沢代	看護学科 教務主任
森下 鮎美	看護学科 実習調整者
阿南 美奈子	助産学科 教務部長
井上 ちはる	助産学科 教務主任兼実習調整者
桐島 弘	事務部長
御幡 瞳	事務係長

※敬称略、順不同

3. 自己評価の内容

学校関係者評価、自己評価に共通して、各項目の評価は下記に示す達成度による4段階の評定基準にて実施する。

1) 【評定基準】

- S : 達成度が極めて高い (達成度が高い)
- A : ほぼ達成している (概ね達成しており、明らかな改善は要しない)
- B : 達成がやや不十分である (若干の改善を要する)
- C : 達成が不十分である (不適合がある、明らかに改善を要する)

2) 自己評価項目

- 項目Ⅰ 教育理念、教育目的・目標、人材育成像
- 項目Ⅱ 学校運営
- 項目Ⅲ 教育活動
- 項目Ⅳ 学修成果
- 項目Ⅴ 学生支援
- 項目Ⅵ 教育環境
- 項目Ⅶ 学生の受け入れ
- 項目Ⅷ 財務
- 項目Ⅸ 法令等の遵守
- 項目Ⅹ 社会貢献・地域貢献

3) 自己評価方法

平成30年度の教育活動、学校運営の全般にわたり、項目Ⅰ～項目Ⅹの内容について、教職員個人による自己評価・自己点検を行い、集約した結果に基づき、自己評価委員会にて評価を行う。

また、評価結果の妥当性を確認し、課題や改善が臨まれる項目については、解決の方向性についての検討を行い、学校関係者評価結果と併せて、健全な学校運営に役立てる。

項目Ⅰ 教育理念、教育目的・目標、人材育成像

総括

教育理念を念頭に置き、教育の指針とし、学校全体の運営を始め学年目標など全てにおいて教育理念に沿った内容になっている。学生便覧、パンフレット、web サイト等で公表し、保護者会等を通して説明するなど、周知を図っている。また、社会情勢、医療情勢を鑑み、社会が求める看護実践能力の向上に向けた教育を目指している。

課題及び今後の改善方策

実習施設からのニーズについては、実習指導者会議や臨地実習の場で情報をいただいているが、今後は、現場が求める人材やその育成等についての意見交換ができる場を設けてさらに連携した教育ができるようにする。

小項目Ⅰ-1

教育理念・目的・目標、人材育成像は定められているか

■自己評価: A

■コメント

教育理念を念頭に置き、教育の指針として学校運営にとりくんでいる。

小項目Ⅰ-2

教育理念・目的・目標、人材育成像、特色などが、学生・保護者、関係業界(高校、病院、実習施設など)に周知されているか

■自己評価: A

■コメント

保護者会や学校説明会、実習指導者会議等で伝え、周知を図っている。

小項目Ⅰ-3

教育目的・目標、人材育成像は、対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか

■自己評価: A

■コメント

学校関係者評価委員会を開催し、学校教育の内容の説明や意見交換を行い、業界のニーズに向けての方向付けを図っている。

項目Ⅱ 学校運営

総括

学校運営会議などで運営方針について検討し、学校運営に関する規程及び組織に関する規程等を整備して学校運営を行っている。情報管理や重要書類の管理等に係る業務については、学事システムを導入し業務の効率化を図っている。

課題及び今後の改善方策

学事システムの導入により、学籍管理、各種証明書の発行等業務の効率化が図られているが、特定のスタッフでしか取り扱いきれない状況であり、今後、業務の偏りが起こらないようにしていく必要がある。

小項目Ⅱ-1

教育理念・目的・目標等に沿った運営方針が策定されているか。

■自己評価: A

■コメント

学校運営会議等で運営方針なおあについて承認を受け実行されている。

小項目Ⅱ-2

運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか

■自己評価: A

■コメント

学生便覧や学校運営に関する諸規程及び組織に関する規程や資料は整備されている。

小項目Ⅱ-3

情報システム化等による業務の効率化が図られているか。

■自己評価: A

■コメント

学事システムにより、情報管理など業務の効率化が図られている。

項目Ⅲ 教育活動

総括

教育理念に基づいた教育課程の編成をおこなっており、年度末に、学年別教育目標の評価を実施し、次年度の教育課程編成を考えている。キャリア教育・看護実践能力の向上に関する教育内容、方法の工夫を図るために、様々な研修への参加を支援し、自己研鑽に努めていける環

境を作っている。シミュレーション教育にも積極的に取り組んでおり、看護実践能力の育成に繋がるような教材を揃え、学生からの授業評価の結果もふまえ、つねに新しい教授方法を模索しながら、授業に取り組んでいる。

課題及び今後の改善方策

授業評価については、今後教員間での評価も取り入れていく必要がある。また、授業評価の結果を受けて、研究授業に取り組んでいくことも今後の課題である。

小項目 Ⅲ-1

教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか。

■自己評価: A

■コメント

教育理念にそって、教科外活動なども組み込まれている。

小項目 Ⅲ-2

キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか。

■自己評価: A

■コメント

教育内容・方法は工夫され、シミュレーション教育など積極的に取り組んでいる。

小項目 Ⅲ-3

授業評価の実施・評価体制はあるか。

■自己評価: A

■コメント

学生からの授業評価は実施できている。

小項目 Ⅲ-4

資格取得の指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか。

■自己評価: A

■コメント

卒業資格については、学生便覧に明記されており、体系的に位置づけできている。

小項目 Ⅲ-5

関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など、資質向上のための取組みが行われているか

■自己評価: A

■コメント

キャリア向上のための研修に参加し、資質の向上に向け努力を行っている。

項目Ⅳ 学修成果

総括

関連施設が充実しており、就職先の選択を早い時期に決定することができ、就職率が100%であることから、卒業後の目標が明確となり、国家試験に向けての取り組みに繋がっている。国家試験対策に関する研修会に多くの教員が参加することにより、学習支援に努めている。途中での進路変更により退学をする学生もいるが、学生個々に応じた関わりを行い、本人にとってベストな選択ができるよう保護者も含め面談を繰り返し行うなど支援を行っている。

課題及び今後の改善方策

国家試験対策については、研修会に多くの教員が参加することにより、取り組み内容に関する能力の差をなくしていく必要がある。また、1年次から国家試験に向けての系統的な取り組みの計画立案が必要である。

小項目 Ⅳ-1

就職率の向上が図られているか。

■自己評価: S

■コメント

就職率は100%であり、中でも関連病院への就職率が高い

小項目 Ⅳ-2

国家試験合格率の向上が図られているか。

■自己評価: A

■コメント

1年次より国家試験対策行っているが、全員合格にはつながっていない。

小項目 Ⅳ-3

退学率の低減が図られているか。

■自己評価: A

■コメント

教職員全体で学生の変化に気づくようにし、情報の共有・かかわりの方針を決めている

小項目 IV-4

学生の社会的な活動を把握しているか。

■自己評価: A

■コメント

フィールドワークなど学年で企画したものについては把握できている。個人の取り組みについては十分とはいえない。

項目 V 学生支援**総括**

進路・就職に関する支援体制、学生相談に関する体制は十分にとれている。また、保護者会を各学年で年2回実施し、何かあれば時宜を逸することがないように保護者への連絡を行うなど、学生支援は十分になされている。また、高校訪問を通してキャリア教育について説明を行い、関係業者等より依頼があれば高校に赴き説明をしている。修学支援については、学校説明会やHPなどで情報提供をおこなっている。

課題及び今後の改善方策

臨床心理士によるカウンセリングを設けているが、あまり活用されていない状況である。時間帯や曜日などに問題があれば改善していく。

小項目 V-1

進路・就職に関する支援体制は整備されているか。

■自己評価: S ■学校関係者評価: 適正

■コメント

職業選択の視点や学生の将来の方向性について意思決定できるように支援している。

小項目 V-2

学生相談に関する体制は整備されているか。

■自己評価: A

■コメント

臨床心理士によるカウンセリングを定期的に行っている。

小項目 V-3

保護者と適切に連携しているか。

■自己評価: A

■コメント

年2回各学年での保護者会を実施している。

小項目 V-4

高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組みが行われているか。

■自己評価: A

■コメント

高校訪問の際、キャリア教育についての話をしている。

小項目 V-5

修学支援体制が整っているか。

■自己評価: A

■コメント

県の奨学金、学生支援機構などの利用者が70%を占めている。

項目 VI 教育環境**総括**

看護師養成所の運営ガイドライン(別表9)に基づき器械器具、標本、模型及び図書(雑誌)は整備しており、学習環境は整備されている。関連の実習病院では、専任の実習指導者を配置し、学生用の器材、学習スペースを設けるなど環境の整備がなされている。防災管理については、消防計画書に定められている通り、年1回の消防訓練をおこなっている。

課題及び今後の改善方策

特になし

小項目 VI-1

施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか。

■自己評価: A

■コメント

特になし

小項目 VI-2

学内外の実習施設等について十分な教育体制を整備しているか。

■自己評価: A

■コメント

実習施設では、定期的に指導者会議を設け、学生及び教育状況を伝えている。

小項目 VI-3

防災に対する体制は整備されているか。

■自己評価: A

■コメント

防災訓練やフィールドワークを実施しており、マニュアルも作成されている。

項目 VII 学生募集

総括

学校説明会、HPなどを通して情報提供を行っている。また、募集活動としては高校訪問時やガイダンスに参加し、資格取得・就職状況等の情報提供を行っている。

課題及び今後の改善方策

学生、保護者向けには学校説明会を実施しているが、高校教員向けに看護の動向や看護師の資格、本校の特徴等の説明会を計画する。

小項目 VII-1

高等学校等接続する機関に対する情報提供等の取組みを行っているか。

■自己評価: A

■コメント

HPや学校説明会により情報提供を行っている。

小項目 VII-2

学生募集活動において、資格取得・就職状況等の情報は正確に伝えられているか。

■自己評価: A

■コメント

HPや学校説明会により情報提供を行っている。

項目 VIII 財務

総括

本部と各校の財務の二重体制をとっており、予算・収支の妥当性、会計監査等は法人理事会で承認されており、会計監査は適正に実施されている。s

課題及び今後の改善方策

特になし

小項目 VIII-1

中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか。

■自己評価: A

■コメント

特になし

小項目 VIII-2

予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか。

■自己評価: A

■コメント

特になし

小項目 VIII-3

財務について会計監査が適正に行われているか。

■自己評価: A

■コメント

特になし

項目 IX 法令等の遵守

総括

保健師助産師看護師法指定規則及び私学専修学校設置基準に遵守しており、毎年、保健師助産師看護師法指定規則第14条、学校基本調査、専修学校実施調査での報告を行っている。個人情報保護については、法人全体で個人情報保護規定を定めている。また、臨地実習においては厚生労働省及び文部科学省のガイドラインに基づき適正に管理している。

課題及び今後の改善方策

特になし

小項目 X-1

法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか。

■自己評価: A

■コメント

保健師助産師看護師法指定規則及び私学専修学校設置基準に遵守している。

小項目 X-2

個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか。

■自己評価: A

■コメント

個人情報保護規定を定めている。臨地実習においても厚生労働省及び文部科学省のガイドラインに基づき実施している。

小項目 X-2

学生のボランティア活動を奨励しているか。

■自己評価: A

■コメント

長期休業を利用して学生個々がボランティアに参加しているが、学校として窓口を設けたり、経済的な支援はしていない。

項目 X 社会貢献・地域貢献**総括**

地域交流、ボランティア活動、フィールドワーク等の実施をしており、地域貢献は図られている。また、学校施設を開放し職員研修、研究発表会、健康教室開催、育児支援講習会等に利用していただき、社会貢献を行っている。

課題及び今後の改善方策

特になし

小項目 X-1

学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか。

■自己評価: A

■コメント

近隣の施設からも本校を活用できるよう学校施設を開放している。